

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	21106		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育原理		担当者名	中原 朋生			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育原理では、「保育の基本」、「発達過程に応じた保育」、「保育所保育指針の考え方」、「保育の歴史と思想」、「保育職務の全体像」について学習し、保育者に必要となる見方・考え方の基礎を培う。

<授業の到達目標>

本授業の終了後、学生は「保育の基本」、「発達過程に応じた保育」、「保育所保育指針の考え方」、「保育の歴史と思想」、「保育職務の全体像」に関する見方・考え方を使用して、保育実践、子どもの実態、保育制度の現状を説明できるようになる。

<授業の方法>

講義では、保育原理に関するワークシート、教科書、パワーポイントを使用する。各個人がワークシートに教育経験や自己の考えを記入する活動を15分程度、学生が概念を習得するための講義45分程度、グループ討議や発表を30分程度を組み合わせた講義を展開する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習を含む）で完成させるワークシート（30%）、双方向学習の取り組み状況（30%）、最終レポート試験（40%）。ワークシート、最終レポート試験は、Aキーワード（授業で講義した見方・考え方）、B論理性（文章の構成）、Cオリジナリティー（自分自身の意見）の3つの観点から採点し、改善の方向性を学生に示すことで、フィードバックする。

<教科書>

池田隆英・上田敏丈・楠本恭之・中原朋生編著（2016年4月5日）

『改訂 なぜからはじめる保育原理』

建帛社

厚生労働省（2018年2月）

『保育所保育指針解説』

フレーベル館

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育の基礎（1）保育の理念と概念	保育と人間形成、養護、教育、養護と教育の一体化、子どもの最善の利益
2	保育の基礎（2）保育対象としての子ども	子どものイメージ、子どもの法的定義、子ども理解の方法
3	保育の基礎（3）福祉としての保育	敗戦と戦災孤児、児童福祉法の成立、保育所と幼稚園の起源、児童福祉法における保育所と保育士の位置づけ、データでみる保育所、保育所の現代的ニーズ
4	保育の基礎（4）保育所保育の制度	
5	発達過程に応じた保育（1）	発達過程、発達課題、愛着理論
6	発達過程に応じた保育（2）	発達の最近接領域、遊びの発達
7	保育所保育指針の考え方（1）保育所保育の基本原則	保育所の役割、保育の目標、保育の方法、保育の環境、保育所の社会的責任
8	保育所保育指針の考え方（2）養護に関する基礎事項	養護の理念、生命の保持、情緒の安定、ねらいと内容
9	保育所保育指針の考え方（3）保育の計画及び評価	全体的な計画の作成、指導計画の作成、保育内容の評価
10	保育所保育指針の考え方（4）幼児教育施設の共有事項	育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、幼稚園教育要領
11	保育所保育指針の考え方（5）保育のねらいと内容	乳児保育の3領域、5領域の考え方
12	保育の歴史と思想（1）子どもの発見	子どもの発見、アリエス、ルソーの保育思想、消極教育
13	保育の歴史と思想（2）近代保育思想	フレーベル、幼稚園、恩物、児童神性論
14	保育の歴史と思想（3）日本の保育史	保育所の歴史、幼稚園の歴史、倉橋惣三、城戸幡太郎
15	保育職務の全体像	保育者の労働環境、保育者の在職と離職、保育職務

科目コード	21400		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	器楽演習 I		担当者名	高崎 展好			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育・教育現場に必要とされるピアノ弾き歌い技術習得に向け、音楽のルールを学び、音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を理解し、ピアノ演奏に必要な読譜力、視唱力、コード（和音）伴奏の習得を目指します。本授業では、音楽の理解を深めるとともに、基本的な発声、ソルフェージュ、歌唱作品を通じて音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムを体感し、楽譜を理解することから音楽の楽しさを会得します。すべての課題レポートについては、Google Classを使用するため、PCを準備の上、望んでください。

<授業の到達目標>

- ① 楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽基礎力を身につける。
- ② ピアノ旋律演奏に必要な読譜力、ピアノ技術を身につける。
- ③ 歌唱に必要な基本的発声、柔軟体操、表現力を身につける。
- ④ ピアノ・コード伴奏に必要な和音（コード）を学習し、簡単な伴奏法の習得を目指す。また読譜力習得に向けたリズム・ソルフェージュを行い視唱力、初見力を高める。コードネームを用いて「子どもの歌」の伴奏付けができることを目標とする。

<授業の方法>

音楽理論を中心とした講義を中心に読譜のためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導の演習を交えながら授業を行う。講義では教科書、教材を中心に学習を進めるが、練習問題や楽譜等の資料を配布することが多いため、各自ファイルを準備することが好ましい。各テーマ（単元）で小テスト、実技テストを実施し習熟度を測る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、実技テスト30%、提出物 20%

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月）
 わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた
 環太平洋大学
 坪野春枝 著（発行2021年3月15日）
 最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】*応用問題*解答付
 有限会社ケイ・エム・ピーkmp

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認
2	楽譜の仕組み1	発声、リズム学習、歌唱指導
3	楽譜の仕組み2	発声、リズム学習、歌唱指導
4	楽譜の仕組み3	発声、リズム学習、歌唱指導
5	楽譜の仕組み4	発声、リズム学習、歌唱指導
6	楽譜の仕組み5	発声、リズム学習、歌唱指導
7	楽譜の仕組み6	発声、リズム学習、歌唱指導
8	楽典と演習1	発声、リズム学習、歌唱指導
9	楽典と演習2	発声、リズム学習、歌唱指導
10	楽典と演習3	発声、リズム学習、歌唱指導
11	楽典と演習4	発声、リズム学習、歌唱指導
12	楽典と演習5	発声、リズム学習、歌唱指導
13	楽典と演習6	発声、リズム学習、歌唱指導
14	楽典と演習7	復習課題
15	総括・試験	確認テスト、振り返り、まとめ

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	21401		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	器楽演習Ⅱ		担当者名	三好 啓子			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

<授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。
2. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。
2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）
3. 教材を読譜する。
4. 教材を視唱する。
5. グループレッスンにより演奏する。
6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）

教育・保育現場で毎日使えるコードでかantan！こどものうたマイ・レパトリー
ヤマハミュージックメディア

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	虫の声	虫の声を使った弾き歌い
3	茶つみ	茶つみを使った弾き歌い
4	ふじ山	ふじ山を使った弾き歌い
5	春の小川	春の小川を使った弾き歌い
6	とんび	とんびを使った弾き歌い
7	まきばの朝	まきばの朝を使った弾き歌い
8	もみじ	もみじを使った弾き歌い
9	こいのぼり	こいのぼりを使った弾き歌い
10	スキーの歌	スキーの歌を使った弾き歌い
11	冬げしき	冬げしきを使った弾き歌い
12	おぼろ月夜	おぼろ月夜を使った弾き歌い
13	ふるさと	ふるさとを使った弾き歌い
14	われは海の子	われは海の子を使った弾き歌い
15	総括	試験曲の確認、レッスン

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	34210		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	子どもの理解と援助		担当者名	平松 美由紀			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

子どもの発達を理解したうえで演習を通して子どもや親への関わり方、発達の援助等を実践的に学ぶ科目である。第1回目から第3回目までは「子どもの実態に応じた発達や学びの把握」について、第4回目から第9回目までは「子どもを理解する視点」について、第10回目から第12回目までは「子どもを理解する方法」について、第13回目から第15回目までは「子どもを理解に基づく発達援助」について学ぶ。

<授業の到達目標>

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することに意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

<授業の方法>

1. その回のポイントを説明する。
2. その回のテーマに沿って講義を行う。
3. その回のテーマを深く理解するための演習を実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度や受講意欲（20%） ¥n小課題（40%） 授業内の小テスト並びに指定された小レポートに取り組み指定されたべ切に提出すること。小テストは授業内容の理解度、小レポートは自身の考えを述べているかを評価する。 ¥nレポート（40%）

<教科書>

なし

<参考書>

文部科学省（2018）
幼稚園教育要領解説
フレーベル館
厚生労働省（2018）
保育所保育指針解説
フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション／保育における子ども理解の意義	授業の目的・概要・進め方について、発達という言葉の意味、乳幼児期に子どもが学ぶべき事項
2	子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開	保育における養護と教育、両者の一体的展開とそのねらい
3	共感性	ほかの人との関係の構築、共感性の理解、共感性のトレーニング
4	子どもの遊び	遊びとは、遊びにおける配慮
5	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	アタッチメント、アタッチメントに基づくかかわり
6	子どもの集団での育ち	子どもの集団での関わり、子どもの育ちにつながる関わり
7	葛藤やつまずき	保育における葛藤・つまずき・いざこざ、事例からみる葛藤、つまずき、いざこざへの支援
8	保育の環境の理解と構成	保育の環境、子どもの理解を踏まえた環境の構成および再構成
9	環境を通しておこなう教育における保育者の援助	環境を通しておこなう教育における子どもの理解①
10	環境を通しておこなう教育における保育者の援助	環境を通しておこなう教育における子どもの理解②
11	職員間の対話	職場における人間関係、円滑なコミュニケーションとは。
12	保護者との情報共有	保護者と保育者の連携、保護者同士の連携
13	発達の課題に応じた援助と関わり	発達課題、乳児期の発達と保育、幼児期前期の発達と保育、幼児期後期の発達と保育
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	特別な配慮を要する子どもの理解、発達障害の子ども理解、障害以外の特別な配慮を要する子どもの理解
15	発達の連続性と就学への支援	発達の連続性、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園から小学校への連携

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	23202		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育社会学		担当者名	濱嶋 幸司			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、教育社会学のこれまでの研究成果を紹介し、履修者に多様な価値観、思考枠組を提供することを目的とする。具体的には、教育現象に関わる個人の心理や社会の仕組みを社会学の視点に基づいて紹介し、履修者が現在および将来、直面することになる諸課題を自分で考え、解決策を見つけることのできる技術を養う。専門知識だけでなく、事例を用いながら説明する。自分のこれまでの生活を振り返り、視野を広げ、今後の進路に役立つ機会としたい。

<授業の到達目標>

- ① 教育社会学の基礎的な考え方を身につけることができる。②身近な生活、教育現象、社会現象について教育社会学を用いて説明することができる。③教育社会学の思考を日常生活に応用し、困難なことが生じても向き合っていくことができる。

<授業の方法>

オンデマンド形式でおこなう。履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各講義で実施する課題は指示を出し（40%）、コメントをする。最終レポート（60%）の評価基準は事前に提示する。

<教科書>

特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

<参考書>

岩永雅也（2019年）

『教育社会学概論』

放送大学出版会

片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編（2017年）

『半径5メートルからの教育社会学』

大月書店

中村高康・松岡亮二（2021年）

『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』

ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス：教育社会学とは？	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	教育社会学とは？①教育社会学の目的・対象・手法	教育社会学の特色、他の学問領域との違いを説明する。社会科学としての研究スタイルを説明し、教育社会学が対象としてきた事例、その目的、手法についても概説する。
3	教育社会学とは？②教育社会学の歴史と現在	教育社会学の研究がどのように現在に至るのか、これまでの著名な研究を時代背景とともに説明する。日本の研究を中心とするが、海外の研究に大きな影響を受けているため、その研究についても触れる。
4	ライフコースと教育社会学①家族と子ども	身近な社会集団といえる家族そして乳幼児期からの子ども社会について説明する。
5	ライフコースと教育社会学②小学生・中学生	義務教育段階の子どもと彼らを取り巻く社会・学校・教育現象について説明する。
6	ライフコースと教育社会学③高校生	高校生の意識および彼らを取り巻く社会、学校、教育現象について説明する。
7	ライフコースと教育社会学④大学生	大学生文化とは何か？大学文化とは？高等教育機関を取り巻く社会、大学、教育現象を説明する。
8	ライフコースと教育社会学⑤職業（初期キャリア）	学校から職業への移行は教育社会学においても重要なテーマである。仕事を探す、キャリアを形成することを教育社会学ではどのように読み解けるのか説明する。
9	ライフコースと教育社会学⑥職業（中期～キャリア）	キャリアと年齢を積み重ね、初職の勤め先を続けることもあれば、離転職を繰り返すこともある。仕事と生活の両立、結婚・子育てといったライフコースについても教育社会学から読み取れることを説明する。
10	ライフコースと教育社会学⑦居住・成熟・老い	一見、学校、教育と関係のないように思われるが、人生の中盤、後半に差し掛かった場面もまた教育社会学の対象となる。成人になってからも学習することは多く、キャリアを積み重ねることの重要性を説明する。
11	教育社会学の観点①グローバリズムとナショナリズム	これからの国際社会を生きることと、自分はどこかの土地で生きること、どちらも将来の生活において不可欠なテーマである。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えても

12	教育社会学の観点②教育格差とは何か	<p>らう。 経済的な格差、暮らし向きの格差、待遇の格差、機会の格差、さまざまな格差が拡大しているといわれている。教育もまたこのような格差との関わりをもっている。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p>
13	教育社会学の観点③社会「問題」と向き合う	<p>社会の「問題」はどこにあるのか？何が「問題」なのか？逸脱現象なども大きく重なる。ここでは社会「問題」の社会学（クレイム申し立て活動）、構築主義的な考え方を概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p>
14	教育社会学の観点④教師への期待と役割	<p>教師および教師を取り巻く社会もまた教育社会学の重要なテーマのひとつである。教師という専門職（仕事）、教師の実践（意識）など概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p>
15	展望：これからの教育社会学をどのように活用できるか	<p>14回にわたる説明をもとに、教育社会学とはどのような学問なのか、現時点での到達状況を説明する。また、履修者自身、教育社会学を用いることでどのような発見、関心を持ったのか、これから何ができそうか考えてもらう時間とする。</p>

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52006		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導 I B (施設)		担当者名	酒井 健太郎／平松 美由紀／高橋 純一／小崎 遼介			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生（保育実習 I B既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会 (2021)

「保育実習の手引き」

保育士養成協議会

厚生労働省

保育所保育指針（平成29年告示）

フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省

幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領

フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて
2	実習の意義と目的	実習の意義・目標、スケジュールについて
3	施設の種類と内容(1)	施設概要の学習(養護系施設)について
4	施設の種類と内容(2)	施設概要の学習(障害児施設)について
5	施設の種類と内容(3)	施設概要の学習(障害者支援施設)について
6	実習記録(1)	実習日誌の意義について
7	実習記録(2)	実習記録のポイントと方法について
8	実習記録(3)	実習記録のポイントと方法について
9	実習書類作成	自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について
10	実習施設の学習	実習施設のプロフィール調査について
11	実習課題の設定	実習課題の理解と作成について
12	事前訪問指導	実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について
13	実習の実際	保育実習 I B既習者である上級生からアドバイス、及び公欠届について
14	実習の心構え	プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について
15	実習事後指導とまとめ	お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52005		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導 I A (保育所)		担当者名	檜寄 日佳/平松 美由紀/増岡 希望/小崎 遼介			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習 I Aの事前学習と事後学習のためのものである。保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習目標・課題を明確にするとともに、保育実習の位置づけ、各保育実習の福祉施設の目的や保育士の保育の基本・業務などを学び、実習に際して、事前・事中・事後においてなすべき内容を理解し、保育実習の全体を把握する。社会人としてのマナーや保育士としての心構えも具体的・実践的に学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習の計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、個別指導、グループワーク

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・授業態度・意欲 30%、課題提出・内容 30%、保育技術実技の準備・取り組み 20%、模擬保育等の準備・グループ貢献度 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会（2019）

保育実習の手引き

岡山県保育士養成協議会

<参考書>

厚生労働省（2017）

保育所保育指針

フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省（2017）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の基本的理解	保育実習の意義・目的、実習の概要
2	保育所実習の内容（1）	保育の基本、保育の内容と方法
3	保育所実習の内容（2）	障がい児保育、子どもの健康及び安全
4	保育所実習の内容（3）	保育所実習の実際
5	指導計画の作成（1）	保育課程と指導計画、模擬保育見学
6	指導計画の作成（2）	指導案作成の手順・留意事項、模擬保育への参加（1）
7	指導計画の作成（3）	指導案作成・模擬保育への参加（2）
8	指導計画の作成（4）	指導案作成・模擬保育への参加（3）
9	実習課題の明確化	自己課題の持ち方
10	指導案に基づく模擬保育	指導案に基づく模擬保育の実践
11	実習の準備（1）	実習関連書類の作成
12	実習の準備（2）	実習日誌の形式と記入の仕方、実習園でのオリエンテーション
13	実習の留意点と事前指導の総括	守秘義務と子ども・保護者の人権擁護、実習生としての心構え
14	事後指導（1）	実習成果や新たな課題の共有と検討
15	事後指導（2）	自己評価・課題の整理・学習目標の明確化

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52007		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習 I A (保育所)		担当者名	檜寄 日佳/平松 美由紀/増岡 希望/未定			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

FC

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会（2019）

保育実習の手引き

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育実習 (1)	実習園における事前オリエンテーション
2	保育実習 (2)	実習園において指導のもとに観察実習 (1)
3	保育実習 (3)	実習園において指導のもとに観察実習 (2)
4	保育実習 (4)	実習園において指導のもとに参加実習 (1)
5	保育実習 (5)	実習園において指導のもとに参加実習 (2)
6	保育実習 (6)	実習園において指導のもとに参加実習 (3)
7	保育実習 (7)	実習園において指導のもとに参加実習 (4)
8	保育実習 (8)	実習園において指導のもとに参加実習 (5)
9	保育実習 (9)	実習園において指導のもとに部分実習 (1)
10	保育実習 (10)	実習園において指導のもとに部分実習 (2)
11	保育実習 (11)	実習園において指導のもとに部分実習 (3)
12	保育実習 (12)	実習園において指導のもとに部分実習 (4)
13	保育実習 (13)	実習園において指導のもとに部分実習 (5)
14	保育実習 (14)	実習園において指導のもとに半日実習
15	保育実習 (15)	実習園における実習反省会

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52008		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習 I B(施設)		担当者名	平松 美由紀／酒井 健太郎／高橋 純一／小崎 遼介			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、児童福祉施設・障害者施設等において観察・参加・部分実習を行う。・児童福祉施設・障害者施設での実習を通して、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設・障害者施設の役割や機能を具体的に理解する。・観察や利用者との関わりを通して利用者の理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、利用者の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・支援の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

FC

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価100%、事前オリエンテーション、事後学習、実習ノートにより加点

<教科書>

岡山県保育士養成協議会（2021）

保育実習の手引き

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育実習（1）	実習施設における事前オリエンテーション
2	保育実習（2）	観察実習（利用者の様子の把握）
3	保育実習（3）	観察実習（職員の様子の把握）
4	保育実習（4）	参加実習（業務に参加することによる利用者の実際の様子の把握）
5	保育実習（5）	参加実習（業務に参加することによる職員の実際の様子の把握）
6	保育実習（6）	参加実習（業務に参加することによる利用者職員との相互関係の把握）
7	保育実習（7）	部分実習（朝の食事介助等指導）
8	保育実習（8）	部分実習（午前のレクリエーション指導）
9	保育実習（9）	部分実習（昼の食事介助等指導）
10	保育実習（10）	部分実習（午後のレクリエーション指導）
11	保育実習（11）	部分実習（夜の食事介助等指導）
12	保育実習（12）	半日指導（午前）
13	保育実習（13）	半日指導（午後）
14	保育実習（14）	部分実習（最終レクリエーション）
15	保育実習（15）	実習施設における実習反省会

科目コード	52009		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)		担当者名	平松 美由紀/檜寄 日佳/増岡 希望/小崎 遼介			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習ⅠA(保育所)による保育現場での体験的学習と専門科目の学習を統合し、保育現場において求められる的確で高度な子ども理解の力と高度な実践的保育技能の習得を目指した演習を中心に進める。また、実習生が乳幼児に与える影響の大きさを自覚し、実習の意義、目的、心構え、実習への意欲的態度、立ち振る舞い等における各自の課題解決に取り組む。

<授業の到達目標>

保育実習Ⅱの実習事前学習として以下の点を目標とする。①保育実習Ⅱにおける実習の意義と目的を理解する。②保育実習ⅠAを踏まえた保育実習Ⅱにおける自己課題を明確化する。③実習事前学習として、各年齢に応じた指導案の立案する力を身に付ける。④実習に向けた教材準備、保育技術の向上のための模擬保育に意欲的に取り組む。

<授業の方法>

・講義、演習(実習の意義・目的、保育所の役割、保育者の役割等)、グループワーク(模擬保育、祖相互評価)、個別指導を組み合わせて実施する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

FC

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・授業態度・意欲 30%、課題提出・内容 30%、保育技術実技の準備・取り組み 20%、模擬保育等の準備・グループ貢献度 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会
保育所実習の手引き

<参考書>

厚生労働省
保育所保育指針
フレール館
内閣府文部科学省厚生労働省
幼保連携型認定こども園教育・保育要領
フレール館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育実習Ⅱの目的と意義	保育実習Ⅱと保育実習ⅠAの相違点と実習の目的と意義
2	保育所(認定こども園)の保育の理解	保育の基本、保育内容と方法
3	保育所(認定こども園)における障害がある子どもの保育	多様な子どもへの保育の理解
4	指導計画案の作成(1)	部分指導に指導計画立案
5	指導計画案の作成(2)	半日指導案の立案
6	模擬保育の実践(1)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(行事・園全体での会等)
7	模擬保育の実践(2)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(リズム遊び、音楽を使った遊び等)
8	模擬保育の実践(3)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(体を使った遊び等)
9	模擬保育の実践(4)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(造形・製作遊び等)
10	模擬保育の実践(5)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(文字や数、言葉を使った遊び等)
11	実習日誌の内容と記載	各年齢における子どもの姿、ねらい、環境構成、保育者の援助等各項目のよりよい記入の仕方
12	実習に向けた諸準備	実習関連書類(実習生自己紹介等)の適切な記入について、事前オリエンテーションの受け方等
13	実習における留意事項	守秘義務、子どもの生命・安全確保・実習生として留意する事項
14	実習事前指導の総括	実習生としての心構え、マナー等、実習に向けての最終確認事項、自己課題の明確化と考察
15	実習事後指導・総括まとめ	実習自己評価、実習の振り返り(グループワーク)、実習のまとめ

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	51008		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)《通年》		担当者名	平松 美由紀/檜寄 日佳/増岡 希望/小崎 遼介			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教諭免許取得のためには現場での体験的な学習が必須である。事前指導では、これまでの幼児教育に関する学びを整理し、理論と実践をつなげるために、模擬保育、教材研究、指導案の作成、保育技術の復習等、実習を想定した様々な準備をしていく。また、「幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う」人間教育であることから、実習生の立ち居振る舞いも問われる。教育実習の意義と心構えを十分に理解し、自己課題を明確にするための学びも重視する。事後指導では、実習の成果と残された課題を分析し、幼稚園教諭としての自覚と問題意識を高める。

<授業の到達目標>

1. 幼稚園実習の事前準備を通して保育の方法と技術を見直し、自己課題を明確にする。2. これまでに学んだ理論を生かして指導案の作成、模擬保育の実施、教材研究、保育技術の復習などを行い、実習に備える。3. 教育実習の意義を理解し、心構えを自覚すると共に、不安を和らげてよい緊張感をもって実習に臨めるようにする。4. 実習後、成果の確認と残された自己課題を分析し、幼稚園教諭としてのさらなる学びへの意欲を持つ。

<授業の方法>

・講義、演習（実習の意義・目的、保育所の役割、保育者の役割等）、グループワーク（模擬保育、祖相互評価）、個別指導を組み合わせて実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度・意欲 30%、課題提出・内容 30%、保育技術実技の準備・取り組み 20%、模擬保育等の準備・グループ貢献度 20%

<教科書>

環太平洋大学（2023）

教育実習の手引き（幼稚園）

<参考書>

文部科学省（2017）

幼稚園教育要領

フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）

幼保連携型認定こども園教育・保育指針

フレーベル館

文部科学省（2018）

幼稚園教育要領解説

フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	幼稚園実習の理解	教育実習の意義と目的、教育実習の目標と自己課題、実習の段階と計画
2	保育者の資質と幼児理解	保育者の役割、保育者の資質、発達理解
3	実習の準備	実習の心得、実習の流れ、実習の具体的準備
4	実習の姿	DVD視聴「保育者の役割」、保育者の姿の読み取り
5	実習日誌の形式と書き方	実習日誌の具体的な書き方とポイント
6	指導案の書き方とポイント	指導計画案の立て方の手順と書き方
7	指導案の書き方と模擬保育(1)	部分実習指導案の作成と模擬保育
8	指導案の書き方と模擬保育(2)	半日実習指導案の作成と模擬保育
9	指導案の書き方と模擬保育(3)	全日実習指導案の作成と模擬保育
10	模擬保育の実施と評価(1)	部分実習模擬保育の実施と評価、実習日誌の記入の仕方
11	模擬保育の実施と評価(2)	全日指導模擬保育の実施と評価、実習日誌の記入の仕方
12	幼児の理解と援助	配慮が必要な幼児の理解と援助
13	実習直前指導	幼稚園オリエンテーション、実習関連書類の作成と諸注意
14	教育実習のまとめ	実習を振り返って・お礼状の作成
15	総括・実習報告会	実習の成果報告と今後の課題の明確化